



神奈川県畜産情報

発行所
神奈川県畜産会
横浜市磯子区西町14-3
畜産センター内
電話 045(761)4191
FAX 045(759)1162
発行人
志村善一

神奈川県畜産会のホームページ
「かながわ畜産ひろば」
[http://kanagawa.lin.gr.jp/index.htm]

毎月1回(1日)発行

[神奈川県畜産情報(平成18年1月号以降)はホームページでもご覧になれます]

定価1部10円(1年100円)
会員の購読料は会費を含む

「平成二十三年度神奈川県畜産保健衛生業績発表会」を開催しました。

平成二十三年度神奈川県畜産保健衛生業績発表会を平成二十四年一月十二日(木)、海老名市文化会館小ホールにおいて開催しました。

この発表会は、家畜保健衛生所が日常業務で得た業績を広く発表し、討議することによって今後の業務推進の一助とする目的で開催するもので、今年で五十三回を数えます。

今回の業績発表会では、酪農・肉牛関係二題、養豚関係二題、家保の取り組み一題、その他四題の合計九題の業績が発表され、(独)動物衛生研究所の中村上席研究員、県畜産技術所長、県畜産課長により、助言と審査が行われ、関東甲信越ブロック家畜保健衛生業績発表会への参加演題(◎)が選出されるとともに、日本産業動物獣医学会関東地区大会(○)、神奈川県獣医師会症例発表会(□)への参加演題が推薦されました。

なお、関東甲信越ブロック家畜保健衛生業績発表会への選出演題のうち一題は五・六番の演題を一題にまとめ選出することとなりました。発表演題の概要は次のとおりです。

1 管内の牛ヨーネ病検査と患畜の発生状況(□)
県央家保 池田 暁史

2 公共牧場の衛生検査見直しによる業務効率化
湘南家保 池田 知美

3 と畜情報を活用した養豚農家指導(◎)
県央家保 山本 和明
平成二十年度から県食肉衛生検査所(以下、食肉衛検)が主体となり、県内養豚農家からモデル農場を選定し、豚のと畜検査で得ら

れた情報を家保が解析し、農場での衛生管理や疾病発生予防等に活用する取り組みを開始した。当所管内モデル農場(A農場)では、平成二十二年四月〜二十三年九月の間、月ごとの肺の廃棄率は九十一・〇%、肝臓は四十九・九%、心臓は二九・九%だった。そこで、家保がA農場で最も肥育豚の発育阻害要因となっている肺炎について、食肉衛検から肺の提供を受け、と畜検査では確認しきれない肺炎病変の程度を確認するとともに細菌検査を実施し、農家指導を行った。また、今年当初に非定型抗酸菌症が発生し腸管の廃棄率が一時八十%に上ったが、と畜情報をもとに指導を行い終息させることができた。A農場では、今回の取り組みにより衛生意識が向上し、安全な豚肉の供給につながっている。と畜検査で届出伝染病等が疑われた場合は全て直ちに家保に連絡がくるようになり、当所管内の農家指導が迅速に行われるようになった。

4 飼育動物診療施設における獣医療法の遵守に向けた取り組み
湘南家保 森村 裕之

5 夏期の停電を想定した飼養実態調査(◎)
県央家保 廣田 一郎
家保は夏期の停電を想定し、出張所管内(以下、管内)の全農場を対象に飼養実態調査及び暑熱対策指導を巡回で実施した。調査内容は、計画停電の有無、発電機の保有、停電時の水の確保等であった。調査の結果、計画停電は四十五%の農場に及んでいた。発電機の保有は震災前は四十一%であったが、計画停電実施後五戸の農場

が購入した。一方、今後も発電機を用いず作業時間の変更等の工夫で対応するという農場があった。停電時の水の確保は水道利用、発電機での揚水等で確保する農場と三間程度なら問題なしとする農場があり対応が分かれた。暑熱対策は各家畜共通で扇風機等による送風が最も多くミストとの組合せ事例もあった。また給餌の時間帯や回数等で工夫する農場もあった。

6 エコ暑熱対策への取り組み(◎)
県央家保 藤澤 知枝
東日本大震災などの影響により節電が求められる中、横浜市において、市・農協・県農事・普及・家保が連携し、電気に頼らない暑熱対策をテーマに農場を巡回、一、グリーンカーテン、二、冷凍ベクトボトルを活用したドリップクーリング、三、畜舎屋根への石灰塗布を推進した。一は巡回時に市が苗を用意し希望した農場へ配布、西日対策等に活用。二は当所がパンプレットを作成し提案、牛・豚への取り組みを開始。しかし三は①畜舎屋根の老朽化により屋根に上り作業が難しい②石灰塗布のための動力噴霧器を所持していない③家族経営で作業者の確保が難しいなどの理由により取り組み

が購入した。一方、今後も発電機を用いず作業時間の変更等の工夫で対応するという農場があった。停電時の水の確保は水道利用、発電機での揚水等で確保する農場と三間程度なら問題なしとする農場があり対応が分かれた。暑熱対策は各家畜共通で扇風機等による送風が最も多くミストとの組合せ事例もあった。また給餌の時間帯や回数等で工夫する農場もあった。

7 消費者に向けた家畜保健衛生所のアプローチ
県央家保 田村 みず穂

8 管内一養豚場で確認された豚皮膚炎腎症候群(PDNS)
湘南家保 平野 幸子
平成二十三年十一月、管内の一貫経営養豚場(繁殖雌豚三百六十頭)において、日齢の異なる肥育豚の体表に赤紫色斑や痂皮等の皮膚病変が認められ、PDNSを疑い病性鑑定を実施した。当該農場では、平成二十二年四月から体表に赤紫色斑が認められる発育不良の肥育豚が散発的に発生していた。病性鑑定は百八十日齢、去勢の肥育豚一頭について、常法に従いウイルス学的検査、細菌学的検査及び病理組織学的検査等を実施した。外観は発育不良で、全身の皮膚に主に1cm以下の不定形の赤紫色斑ないし丘疹が多数みられ、一部痂皮を認めた。耳翼および臀部から後肢では融合した赤紫色斑がみられ、一部黒褐色を呈している。

9 遺伝子の塩基配列の解析により分離菌の同定・確認を行った病性鑑定例(○)
県央家保 小菅 千恵子
以上、発表内容に興味がある方、詳しく知りたい方は、各家畜保健

寒さにお肌こそして 介護にすずめは 乳肉卵を

連日近年にない寒さが続きます。昨年の震災から一〇ヶ月が経過し、被災地の雪景色が放映され、さぞ寒いことと存じます。暖房用の灯油や防寒着等は調っているでしょうか。暖かい食べ物も食べられるのでしょうか。寒くならず暖かい鍋料理がほしくなり、酷暑の夏に好まれた牛乳の消費は急減。学校給食定番の牛乳の飲み残しは、夏は五%だったのが冬には一五%にもなるとか。小学生のカルシウム必要摂取量は六七〇程度だそうですが、牛乳二〇〇ミリリットルに二七mgのカルシウムが含まれており、もし牛乳だけでカルシウムをとるならば六〇〇ミリリットルも飲まなければ足りません。骨にいいとよく聞かれますが、飲み込んだコラーゲン

がそのまま体内に運び込まれてお肌を潤すなんてことはねーのさ。高い金出してコラーゲンなんて薬まがい物飲んでたり食べたりするよりも乳、肉、卵、良質の動物性タンパクを美味しく食べる方が効果的。ましてや「お肌に潤いを」なんて皮膚に塗って皮膚から吸収させようなんて何をか況んや。皮膚がタンパク質を吸収するわけねーだろうが。こんな薬もどきを宣伝販売する輩が来たらコラーゲンをくれやれ。

育ち盛りの子供たちに牛乳を、お肌の荒れが気になるご婦人にも牛乳を、毎晩焼酎やウイスキーを飲む飲兵衛には水割り、お湯割り、お茶割りではなく、牛乳割り「カクテル ホルスタイン」をお奨めです。つまみはもちろん肉と卵。五〇過ぎたら粗食はやめて、低栄養で介護をうけるような事が無いように気を付け給え。(忠九朗)

衛生所にお問い合わせください。(県畜産課安全管理グループ)
肉用子牛生産者補給金制度
乳用種に生産者補給金が交付されます。
平成二十三年度第3四半期(二十三年十一月)の指定肉用子牛の品種区分ごとの平均売買価格は次のとおりです。

黒毛和種	三九七、九〇〇円
交雑種	二二七、三〇〇円
乳用種	八九、二〇〇円
乳用種は保証基準価格(二一六、〇〇〇円)を下回りましたので、その差額、二六、八〇〇円の生産者補給金が交付されることになりました。	
黒毛和種・交雑種は保証基準価格、合理化目標価格を共に上回っているため、生産者補給金の交付はありません。	

★補てん金交付日
平成二十四年一月二十三日
(経営指導部 倉迫)

「新マルキン事業」
「平成二十三年度第3四半期(十一月販売分)の補てん金単価(平均粗収益と平均生産費の差額の八割)」
肉専用種 六二、三〇〇円
交雑種 一七〇、六〇〇円
乳用種 九七、七〇〇円

「社」神奈川県肉用子牛価格安定基金協会

競馬の収益金は畜産振興に役立っています。

川崎競馬開催日

2月27日(月)~29日(水)・
3月1日(木)・2日(金)

原賠賠償対策の最近の動き

去る一月二十七日、中央農業会館でJA原発事故損害賠償対策協議会第七回幹事会が開催された。これには東電も出席し、昨年十一月に提出した「風評被害に伴う肉牛の損害報告書」に対する回答がありました。結果から述べますと、請求に対しゼロ回答でした。その理由は、①神奈川県牛の出荷制限指示等の状況、②出荷制限指示はなかったことを示す資料が示された。③神奈川県から暫定許容値を超える放射性物質の検出状況、④不検出結果のみを示す資料が示された。⑤神奈川県への暫定許容値を超えた放射性物質に汚染された稲わらの流通状況、⑥該当する汚染稲わらの流通はなかったとの説明があった。

これに対し、「神奈川県からの風評被害賠償請求は、東電の賠償の対象となる風評被害にあたらな」ということが確認された。その後、①本県産牛肉に出荷制限指示はなかったが、風評被害は実際にはあったこと。②東電から示された資料では、放射性物質が全て不検出だが、基準値以下であるが検出はされており、資料に公平性を欠くこと。③汚染稲わらの流通はなかったが、汚染牛肉は東京都から県内に流通しており、これを受けて横浜市が学校給食で牛肉を使用中止したことは、買い控えの大きな要因になっていること。流通が停滞したことで生産者は出荷延期を余儀なくされたこと等を説明しました。

今回の回答を踏まえ協議会で検討したところ、新たに牛肉部会を設置して対応を協議することとなりました。構成員は、生産者代表、県畜産会、JA中央会、全農かながわの予定です。

東電は、本県の風評被害については賠償の対象ではないとしています。ですが、実際に被害があったことは明らかであり、今後も継続して賠償対策を進めていく所存です。

(県畜産会専務理事 丹波)

研究情報

本トウモロコシ

二期作の経済性の検討

畜産技術所では、平成二十一年度からトウモロコシ二期作(以下、二期作)の実用化に取り組んでいます。

そこで、酪農家が二期作を導入するための目安として、土地生産性、生産費、経済性についてトウモロコシ単作(以下、単作)及び二毛作と比較して検討しました。

土地生産性の比較

平成二十一年から二十三年までの三年間、四月、五月及び八月播種トウモロコシ、イタリアングラスの収量調査をしました。

四月播種トウモロコシは、四月上旬に播種して八月上旬までに収穫したRM100から110までの品種の収量としました。五月播種トウモロコシは、五月上旬に播種して八月中旬に収穫したRM115から125の県奨励品種の収量、八月播種トウモロコシは、八月上旬に播種して十一月下旬から十二月上旬までに収穫したRM125からRM150までの品種の収量としました。イタリアングラスは、十月上旬

に播種して翌年四月下旬に収穫した短期利用型品種の一番草の収量としました。

栽培体系別の収量は、これらの収量を組合せました。単作は五月播種トウモロコシの収量、二毛作は五月播種トウモロコシにイタリアングラスを加えた収量、二期作は四月及び八月播種トウモロコシの合計の収量となります。

栽培体系別の収量は、これらに比較した場合では生草、乾物、TDN収量ともに80%多収となり、二毛作と比較した場合では生草収量はほぼ同じでしたが、乾物収量は25%、TDN収量は30%多収となりました。(図1)

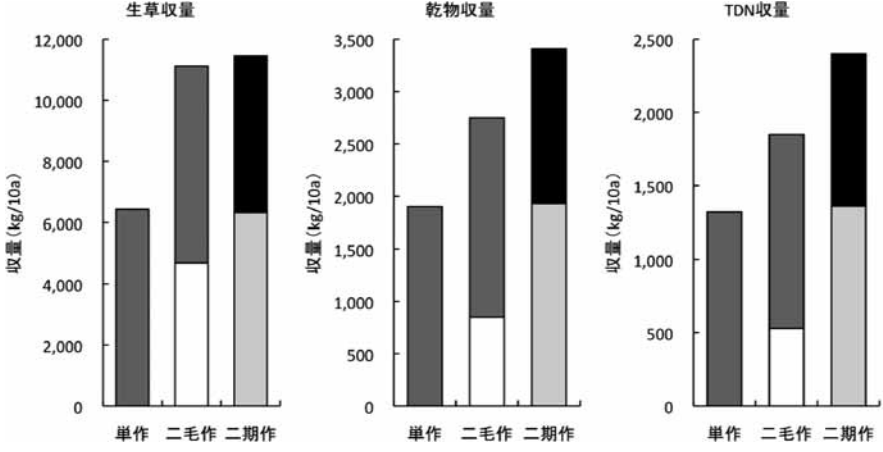


図1 栽培体系による土地生産性の比較

表1 栽培体系別の10a当たりの資材費

種類	単作	二毛作	二期作
種子	3,800	5,600	7,600
肥料	2,500	3,500	5,000
農薬	2,150	2,150	4,300
燃料	3,600	7,200	7,200
ロールペール	12,410	16,730	22,280
合計	24,460	35,180	46,380

表2 栽培体系による生産費の比較

種類	単作	二毛作	二期作
生草	3.8	3.2	4.0
乾物	12.9	12.8	13.6
TDN	18.5	19.0	19.3

表3 体重600kg、日産乳量30kgの飼料給与設計

飼料	単価(円/kg)	給与量(kg)		
		単作	二毛作	二期作
トウモロコシサイレージ ¹⁾	6.3	10	10	17
イタリアングラスサイレージ	6.3	—	6	—
配合飼料(18-74)	60.0	11	11	10
チモシー乾草	49.0	3	3	2
スーダングラス乾草	41.0	3	—	3
アルファルファ乾草	46.0	4	4	4
ビートパルプ	45.0	2	2	2
粗濃比		50:50	50:50	54:46
乾物給与量		22.6	22.7	22.7
CP充足率		117	122	115
TDN充足率		107	108	107
飼料費	円/頭・日	1,242	1,157	1,163

1) トウモロコシサイレージの単価は、単作及び二毛作は3.8円/kg、二期作は4.0円/kg
2) 二毛作のイタリアングラスサイレージ給与可能期間は5.3ヶ月で、他は単作と同じ

表4 作付け体系による年間飼料費比較

	単作	二毛作	二期作
通常	13,600,000	7,594,000	12,735,000
イタリアンサイレージ利用		5,595,000	
年間飼料費(円)	13,600,000	13,189,000	12,735,000
対単作飼料費(円)		-411,000	-865,000
対二毛作飼料費(円)			-454,000

このように、二期作は、単作や二毛作と比べて生産費は多くなり、土地生産性に優れ、自給飼料の給与量が増えることにより、飼料費の低減につながり、経済性にも優れる結果となりました。今回の検討では、自給飼料を増やすことが飼料費の低減につながる結果になりました。本県における二期作についてもデータが蓄積されてきており、トウモロコシ二期作が可能な地域では自給飼料の増産に最も有効な栽培体系だと考えられます。二期作の導入にあたっては、個々の事情にあわせて技術協力や情報提供が可能な方で、興味をお持ちの方は、畜産技術所までご連絡下さい。

「寒い時期の浄化槽管理」 気温の低いこの時期は、浄化槽の管理に苦勞させられることと思います。元々、活性汚泥は、ばつ気量、ばつ気槽に入る汚水の量や濃度、汚泥の量、水温などの影響を受けて、日々変化する気紛れ屋さんです。これをうまくコントロールし、きれいな処理水を維持することは、とても難しいことです。家畜を飼い、良質な畜産物を生産することが、素人には難しいことと同じです。しかし、管理をプロに任せては、経費がかかりすぎてしまいます。そこで、この時期の浄化槽管理、特に活性汚泥を正常な状態に保つための3つのポイントを、今一度確認しましょう。

家保だより

寒い時期の浄化槽管理

①十分なばつ気量の確保 汚濁物質量にあった酸素量を供給しましょう。ただし、回分式や間欠ばつ気の場合は、送気量に加えて送気時間にも注意が必要です。また、ばつ気槽内が十分に攪拌されていることも確認してください。

②適切な汚濁物質の量と質 汚水量や汚水濃度が過剰となっても不足してもダメです。この時期は活性汚泥の活動が鈍いため、一時処理等をきちんと行い、汚濁物質を減量してください。そのためには、パンプクリーナーやスクレーパーなどのふん尿分離機の清掃をマメに実施するようにしましょう。また、家畜の飼養頭数の大きな増減をしないことも一つの注意点です。

③適切な活性汚泥量の確保 これも酸素量と同じで、過剰でも不足でもダメです。活性汚泥の活動が鈍いので、意図的に過剰にしている施設、逆に、寒さで死滅して、殆どない施設も多くみられます。過剰な施設は、余剰汚泥をきちんと排出してください。汚泥が死滅して、みられない施設は、ほかの施設からもううなどの対策が必要です。

(湘南家畜保健衛生所 荒井)

企画研究課 折原 健太郎